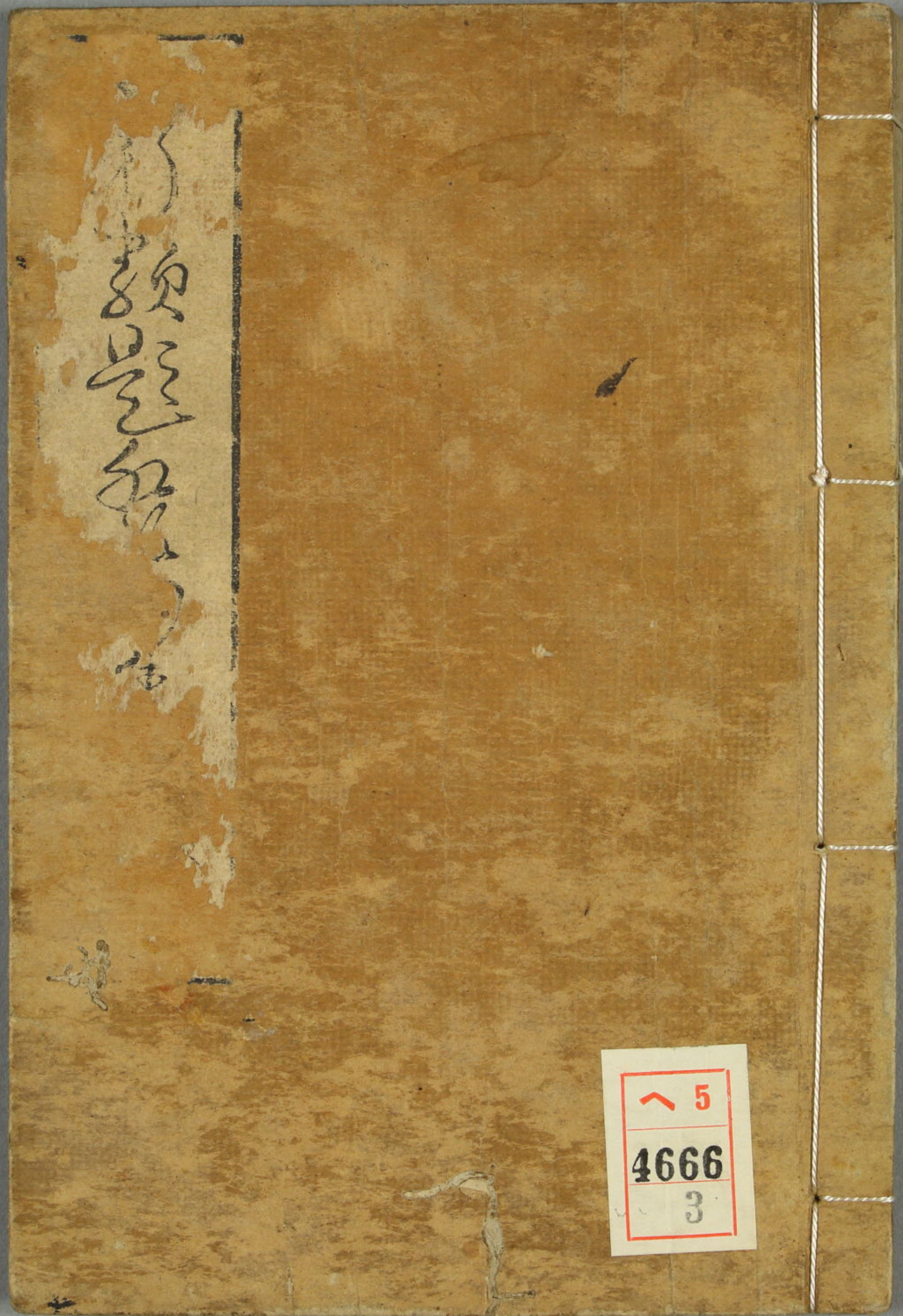
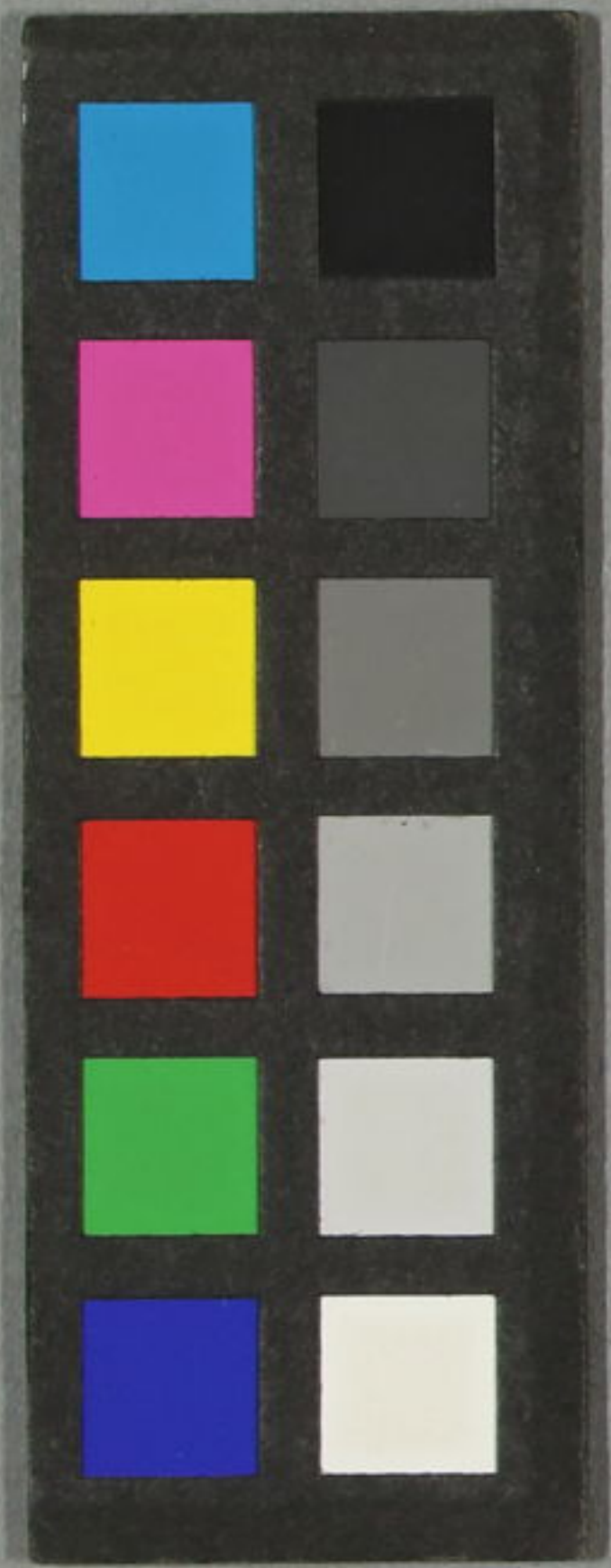




5
4666
3

8
9
20
1
2
3
4
5
6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
4

門 5
4666
3

新類題後集秋之部

七月

文月

立秋

子とやあふふく小傾城
秋とやあふふく小傾城
秋とやあふふく小傾城
秋とやあふふく小傾城
秋とやあふふく小傾城
秋とやあふふく小傾城
秋とやあふふく小傾城
秋とやあふふく小傾城
秋とやあふふく小傾城
秋とやあふふく小傾城

蝶夢編

尼 琴之
吳竺
葉二
檀阿
譚同
白輅
黃吻

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏贈

初秋
 市店り秋もの集りてふ所
 けし秋葉の山道に候き舞
 初風こゝろをくぬき初を
 ちの秋をよめる歌をきき
 初めはく月夜にふし
 風の灯あも初を夜にき
 秋をよめる歌をきき
 初めはく月夜にふし
 風の灯あも初を夜にき
 秋をよめる歌をきき
 初めはく月夜にふし
 風の灯あも初を夜にき

素郷 雨後 尺布 楚水 松夢 杜若 標平

秋一

二星
 錦衣の雲をくぬき初を夜
 初めはく月夜にふし
 風の灯あも初を夜にき
 秋をよめる歌をきき
 初めはく月夜にふし
 風の灯あも初を夜にき
 秋をよめる歌をきき
 初めはく月夜にふし
 風の灯あも初を夜にき

天行
 初めはく月夜にふし
 風の灯あも初を夜にき
 秋をよめる歌をきき
 初めはく月夜にふし
 風の灯あも初を夜にき
 秋をよめる歌をきき
 初めはく月夜にふし
 風の灯あも初を夜にき

成美 万容 曾姓 露梧 鳥語 眠亭 負祿 三霞 如毛 獨雪

鶴橋

乞巧奠

願糸

立琴

梶葉

横手六節のちう乃新なるれ
おとけの橋あまうと羽衣
あまのこもあまのこもあまのこも
夕陽や影いよけはくま
一節の糸やまう一節の糸
立琴の糸やまうあまのこ
しう琴や影あまのこ
あまのこもあまのこもあまのこも
あまのこもあまのこもあまのこも

坐忘

曲浦

梨枝

槐主

一行

土井

大急

菜乙

柴居

杉木

秋二

梶葉

芋葉露

硯洗

池坊嘉

峯入

六道達

上之鶴のちう乃新なるれ
おとけの橋あまうと羽衣
あまのこもあまのこもあまのこも
夕陽や影いよけはくま
一節の糸やまう一節の糸
立琴の糸やまうあまのこ
しう琴や影あまのこ
あまのこもあまのこもあまのこも
あまのこもあまのこもあまのこも

馬十

座忘

自笑

鳴水

東蘆

習之

坐忘

東川

可亭

坐忘

魂迎

孟菊盆

盆月

魂祭

[illegible]

秋三

五洲 南河 五德 葉二 作老知 其思 古案 枯香 必老知 二柵

惠棚

[illegible]

楚辭
青蘿
素外
輝牛
如猿
雨石
荷淨
蘭圃
有桺
校法

蓮花華

麻柯著

蓮飯

桐經

あまのねやまのさの灯のり
たすねの灯はほくもねふ
きくねのさのさのさのさ
くねのさのさのさのさ
ねのさのさのさのさ
あまのねやまのさのさ
ねのさのさのさのさ
かたやまのさのさのさ
さのさのさのさのさ
さのさのさのさのさ

善盛
吉光
花朗
得泉
清水
秋和
如在
梅珠
江美
望雲

秋四

高松様

幕泰

招待

送火

あまのねやまのさの灯のり
たすねの灯はほくもねふ
きくねのさのさのさのさ
くねのさのさのさのさ
ねのさのさのさのさ
あまのねやまのさのさ
ねのさのさのさのさ
かたやまのさのさのさ
さのさのさのさのさ
さのさのさのさのさ

場村
杜石
鶴朝
棒次
曲阿
松坡
路風
道紀
喜洞
素島

切籠燈籠
舟火
妙法火

大文字

いふは月あかりは川を照れ
いふは月あかりは川を照れ
いふは月あかりは川を照れ
いふは月あかりは川を照れ
いふは月あかりは川を照れ
いふは月あかりは川を照れ
いふは月あかりは川を照れ
いふは月あかりは川を照れ
いふは月あかりは川を照れ
いふは月あかりは川を照れ

眠花
鳥咽
相友
篠袴
五雲
雲
何有
太々
若尾
三季

秋五

揚燈籠

躍

月あかりは川を照れ
月あかりは川を照れ
月あかりは川を照れ
月あかりは川を照れ
月あかりは川を照れ
月あかりは川を照れ
月あかりは川を照れ
月あかりは川を照れ
月あかりは川を照れ
月あかりは川を照れ

梅東
雨沼
祇尹
笙海
老蟻
槐主
蝶愛
望雲
和牛
白輅

秋

やまのふかき木を待たせ

几葎

投てきし神をしのぐお撲より

疎水

夏ふくむる雷なる角力取

六馬

つる里のまきもくもくもく

一瓢

まのふかき木を待たせ

幽堂

踏てきし神をしのぐお撲より

縁夢

角力取のまきもくもくもく

東取

お撲よりまのふかき木を待たせ

百柳

雲の夜はふくむる雷なる

立李

様もくもくもくもくもくもく

秋七

花火

土

捨扇

白雲のふかき木を待たせ

上

骨をくむる秋のあまの

湖房

けしきもくもくもくもくもく

主信

花のふかき木を待たせ

茂与

からものふかき木を待たせ

送枝

田舎のふかき木を待たせ

時中

ふかき木を待たせ

吳達

ふかき木を待たせ

風文

ふかき木を待たせ

尺布

都そのふかき木を待たせ

蒲尺

秋風

秋風や 柳を揺るさる
こころを柳もさるさる風
みかふふさふさ秋の風
あはれ風や 瘧をさるさる風
阿ま風や 眉をさるさる風
胡をさるさる風
老僧をさるさる風
身もさるさる風
秋風や 心もさるさる風
秋風や 心もさるさる風

子好 古歌 三歌 五雲 一鳳 李唐 五跡 風五 香五

朝涼

冷

秋風や 柳を揺るさる
こころを柳もさるさる風
みかふふさふさ秋の風
あはれ風や 瘧をさるさる風
阿ま風や 眉をさるさる風
胡をさるさる風
老僧をさるさる風
身もさるさる風
秋風や 心もさるさる風
秋風や 心もさるさる風

逸人 龍石 柳夕 柳石 雲清 梅序 宇甲 雲甫 黃治

身入

残暑

露

冷くも暑くも秋の気配
しらぬも身入るも秋の気
伊豆も山も水も秋の気
まじりぬるも秋の気
推しぬるも秋の気
秋の気も秋の気
あつたも秋の気
あつたも秋の気
あつたも秋の気
あつたも秋の気

木采 染衣 鴻水 梅金 桃秋 倭衣 鳥咽 鷺弓 菊隈 素心

秋九

霧

蘇

梅

朝霧も紙のやまも 巻行
あつたも秋の気
露もも秋の気
あつたも秋の気
あつたも秋の気
あつたも秋の気
あつたも秋の気
あつたも秋の気
あつたも秋の気
あつたも秋の気

葉戸 群長 東葛 蝶菱 花毛 木水 蓮枝 泰候 五周 安曇 御心

稻妻

木更のつらき雲のり雲れき
に雲のつらき雲のり雲れき
雲のつらき雲のり雲れき
雲のつらき雲のり雲れき
雲のつらき雲のり雲れき
雲のつらき雲のり雲れき
雲のつらき雲のり雲れき
雲のつらき雲のり雲れき
雲のつらき雲のり雲れき
雲のつらき雲のり雲れき

右桑
修成
南二
栗堂
五末
古巢
東雛
草路
屋邦
文野

秋十

稲光

一葉散

稲光のつらき雲のり雲れき
稲光のつらき雲のり雲れき
稲光のつらき雲のり雲れき
稲光のつらき雲のり雲れき
稲光のつらき雲のり雲れき
稲光のつらき雲のり雲れき
稲光のつらき雲のり雲れき
稲光のつらき雲のり雲れき
稲光のつらき雲のり雲れき
稲光のつらき雲のり雲れき

魚文
雲文
沂風
越勢
六花
迷猷
可休
八枝
楚如
山加

楸散

肩あがりさしつゝしるしを
おかしめしつゝしるしを
かきつゝしるしを
きりぎりすしるしを
しるしを
しるしを
しるしを
しるしを
しるしを
しるしを

如文
眠床
其一
陶々
瓦金
星布
雨葉
葉金
葉金

牽牛花

朝顔やさきさき
朝顔やさきさき
朝顔やさきさき
朝顔やさきさき
朝顔やさきさき
朝顔やさきさき
朝顔やさきさき
朝顔やさきさき
朝顔やさきさき
朝顔やさきさき

津六
得往
祥光
湘月
蝶々
扇後
甫尺
砂合
露結

木槿

あきくもや霜のさる一よもの
初秋意一日暮のいとしけ
夕の影蒼ふもも木槿の
ささるもあけの光の木槿
影のまをてしほも年を
さるも明もいささか秋を
花のしるはるのさるも
くちまのさるのさるも
おのれはさるのさるも
おのれはさるのさるも

曾秋 寒嶋 文雅 散菴 蘇朝 修契 其白 旧西 左右 蛙観

女郎花

秋十二

男郎花

萩

あきくもや霜のさる一よもの
初秋意一日暮のいとしけ
夕の影蒼ふもも木槿の
ささるもあけの光の木槿
影のまをてしほも年を
さるも明もいささか秋を
花のしるはるのさるも
くちまのさるのさるも
おのれはさるのさるも
おのれはさるのさるも

石化 重厚 可候 其福 江島 腫花 瓢之 今羅 西瓜 一片

萩

押さへてゐるさういふ萩の志
吹さへあるさういふ萩の志
折るやもあつたさういふ萩の萩
其の萩もあつたさういふ萩
うさへあつたさういふ萩
落さへあつたさういふ萩
折さへあつたさういふ萩
折さへあつたさういふ萩
折さへあつたさういふ萩
折さへあつたさういふ萩

井戸
古竹
雨沼
梅園
素泊
彩石
磐石
鼓水
文里
瓦山

蘭

藤袴

桔梗

沢桔梗

萩の風やうさうさうさう
萩の風やうさうさうさう
萩の風やうさうさうさう
萩の風やうさうさうさう
萩の風やうさうさうさう
萩の風やうさうさうさう
萩の風やうさうさうさう
萩の風やうさうさうさう
萩の風やうさうさうさう
萩の風やうさうさうさう
萩の風やうさうさうさう

几董
驚香
関山
我白
桃里
流光
有梅
梅夜

仙翁花
曼珠沙
鬱金花
蕤荷苞
冬花
旋覆花
狼尾草
水引草
千日紅
草花

せんおうやふいふさくせんはくし
牛馬のなまらふやまふふも
女郎花の咲くうらふらふ
拾ふうらふも拾ふうらふも
馬蹄子めくめくうらふらふ
小車やうらふらふうらふの中
えのうらふらふうらふらふ
結ぶうらふうらふうらふ
結ぶうらふうらふうらふ
これおまへうらふうらふ

百毒
風路
周耕
友雲
乙馬
柳雪
雪平
洞迷

秋十四

忍草
芭蕉

忍草のうらふうらふうらふ
芭蕉のうらふうらふうらふ
芭蕉のうらふうらふうらふ
芭蕉のうらふうらふうらふ
芭蕉のうらふうらふうらふ
芭蕉のうらふうらふうらふ
芭蕉のうらふうらふうらふ
芭蕉のうらふうらふうらふ
芭蕉のうらふうらふうらふ
芭蕉のうらふうらふうらふ

香後
文中
松音
小魚
子影
素心
兼之
雲巴
其音
吸露

布瓜

江戸入る魚もあつた

仙魚

南瓜

ふりかけのきつね

斗術

番椒

江戸のきつね

雪阿

江戸のきつね

北魚

生薑

江戸のきつね

楓子

早稻

江戸のきつね

其白

稿

江戸のきつね

以流

田虫送

江戸のきつね

東凡

虫

江戸のきつね

野弓

江戸のきつね

素輪

江戸のきつね

桃花

江戸のきつね

百花

江戸のきつね

煙草

しんの聲しんも夜も物騒ん
虫鳴や夜もものけり物
おれいひも不静の夜も
おれいひも不静の夜も
おれいひも不静の夜も
おれいひも不静の夜も
おれいひも不静の夜も
おれいひも不静の夜も
おれいひも不静の夜も
おれいひも不静の夜も

素郷 曾秋 其西 如泊 荷露 吳雪 里夜 耳之 塘里 东舟

秋十七

虫撰

虫合

虫籠

虫賣

蚕

おのきやうにけり物騒ん
おのきやうにけり物騒ん
おのきやうにけり物騒ん
おのきやうにけり物騒ん
おのきやうにけり物騒ん
おのきやうにけり物騒ん
おのきやうにけり物騒ん
おのきやうにけり物騒ん
おのきやうにけり物騒ん
おのきやうにけり物騒ん

文彦 俊祐 小幡 口水 道肥 築家 葛存 周路 東走 蝶夢

夜半の月をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば

菊二
 東舟
 然叟
 加南
 散菴
 仙翁
 李清
 由理
 山性
 宗漢

秋十八

金新
 蜻蛉
 龍馬
 鳥蟲

夜半の月をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば
 月影の光をみれば

凡十
 其柏
 如柗
 二考
 吾居
 龍叟
 井々
 青々
 梅子

蟠螂

蟬虫

松虫

鈴虫

蟠螂もやうな事してゐる
 蟬虫もやうな事してゐる
 松虫もやうな事してゐる
 鈴虫もやうな事してゐる

出る 瑞州
 法依 和泥
 踏石 里石
 他 仙臺
 斗跡
 肩代
 主代
 露友
 亞柳

秋十九

恙虫

蚯蚓

藻虫

蜻蛉

恙虫もやうな事してゐる
 蚯蚓もやうな事してゐる
 藻虫もやうな事してゐる
 蜻蛉もやうな事してゐる

以中
 至三
 重厚
 梅枝
 茶橘
 杉和
 呂指
 集窓
 花朗
 如白

秋蟬

訂録の事とて、めいけり
ものも、約稿といふ所が
東家、まゝなりあるに
日く、やうなものの書
るゝや、有らぬ仲、東
家、や、目にあつた書、
響の風より、一木、れ
き、し、4、さ、秋のさ
秋の蝶、さ、さ、さ、
鳴く、さ、さ、さ、

楊源
 里塘
 李雪
 錄爰
 童起
 李陸
 蔣
 似
 柳飛
 江山
 上碩
 顏奇

秋

秋螢

秋牧

阿まの蟬あさりしはかき
 日たき葉まきもちやなま
 乃きりひんて若くは乃
 宵あひしは秋のちりき
 甲あひし種も甲あひし
 くらぬをさきり秋の
 あまの葉扇あまの
 ちりしはひんて若くは
 秋のちりしは秋の
 よろこひしは秋の

後川
 曲橋
 冬季
 五升
 呂繖
 後石
 雷馬
 後中
 李中
 因恤
 度律
 素牛
 吳仙
 馬仙

殘蚊

秋蠅

秋鶚

秋の朝や心細きより遠く来る
煙も老はぬの煙氣とほじ香
のる朝乃粒をじ雲丹障子外
人言てゑのうへもあふれそへ
月城もさうさうのけり秋の魂
世実を掃きゆくや秋意睡
ぬかちんきむ扇かなさめぬ
秋空煙のふる日遠くあるれ
あまの蝶衣もさみしき夕雲
煙のそよ草花散りし夢なり

其

玉里

沂水

鳥名

五來

家凡

致一

德

涉舟

...

东莩

—

古塘

平角

秋廿二

いふは、
うきうき
うきうき
うきうき
うきうき

書

露徑

甜麦

素友

龍茗

...

只有

上

露吟

三

博子

五

杉木

貝朱

鴉吹

鷹山別

時出者

急を以て世を治るるは

荒鷹

小鷹狩

初鳥狩

竜田姫

八月

葉月

八朔

あつ鷹のちりあは賑う面おもれ
あつ鷹のちりあは賑う面おもれ
あつ鷹のちりあは賑う面おもれ
あつ鷹のちりあは賑う面おもれ
あつ鷹のちりあは賑う面おもれ
あつ鷹のちりあは賑う面おもれ
あつ鷹のちりあは賑う面おもれ
あつ鷹のちりあは賑う面おもれ
あつ鷹のちりあは賑う面おもれ
あつ鷹のちりあは賑う面おもれ

花蝶

古采

三鼓

李雲

佐藤

重厚

鳥孝

秋世二

田舎者

絵行末

彼岸

二言十日

出代

駒牽

漁りあつちりあは賑う面おもれ
漁りあつちりあは賑う面おもれ
漁りあつちりあは賑う面おもれ
漁りあつちりあは賑う面おもれ
漁りあつちりあは賑う面おもれ
漁りあつちりあは賑う面おもれ
漁りあつちりあは賑う面おもれ
漁りあつちりあは賑う面おもれ
漁りあつちりあは賑う面おもれ
漁りあつちりあは賑う面おもれ

寸高

南洞

楚時

馬名

文鳥

志功

黄口

柳毛

寸指

金泉

放生會

引釣や毎まて種を拂つ
魚を海に放つるや秋中
さきつゝや秋の魚あはる
さきつゝや秋の魚あはる
さきつゝや秋の魚あはる
さきつゝや秋の魚あはる
さきつゝや秋の魚あはる
さきつゝや秋の魚あはる
さきつゝや秋の魚あはる
さきつゝや秋の魚あはる

下町

我聖

丹波

葉戸

とに

霞孟

陸奥

徳樓

紀伊

丁月

考川

朝花

秋

杜音

秋九三

梅十

葉乙

待宵月

名月

戸をきくや秋の魚あはる
戸をきくや秋の魚あはる
戸をきくや秋の魚あはる
戸をきくや秋の魚あはる
戸をきくや秋の魚あはる
戸をきくや秋の魚あはる
戸をきくや秋の魚あはる
戸をきくや秋の魚あはる
戸をきくや秋の魚あはる
戸をきくや秋の魚あはる

秋

其和

秋

葉乙

秋

太溪

秋

魯白

秋

聖弓

秋

路靜

秋

吉行

秋

菊二

秋

若菊

秋

鯉旬

月夜の涼風はさす柳の葉
 月夜の静かなる清乃声
 月夜のあつたき縄暖き人
 月夜のやうくさるる山を
 月夜のさるるふけの音
 月夜のとほりてのさるる
 月夜のとほりてのさるる
 月夜のとほりてのさるる

且来
 古友
 如法
 素心
 書院
 牛茂
 李山
 遠寄
 六花
 蝶夢

秋九四

今日月
 今日月
 今日月
 今日月
 今日月
 今日月
 今日月
 今日月
 今日月

葉隠
 寒鴉
 披雲
 文母
 連山
 望雲
 麻介
 園文
 中庭
 航聚

雨月

おろろも何らしめあはれ月
ふくもふくもふくも雨月
中にもふくもふくも雨月
月もふくもふくも雨月
月もふくもふくも雨月
月もふくもふくも雨月
月もふくもふくも雨月
月もふくもふくも雨月

雨月
雪月
二石
素山
鯨破
野月
完車
百井
丁江

初潮

野分

ふくもふくもふくも雨月
ふくもふくもふくも雨月
ふくもふくもふくも雨月
ふくもふくもふくも雨月
ふくもふくもふくも雨月
ふくもふくもふくも雨月
ふくもふくもふくも雨月
ふくもふくもふくも雨月

一兆
五來
千尺
素海
李山
芦台
六合
桃東
藤菱
其中

朝寒

夜寒

肌寒

漸寒

朝寒やしもくく底の福言はる
秋の夜も心も言ふまじき
阿の言も心も言ふまじき
あや言も心も言ふまじき
や言も心も言ふまじき
御言も心も言ふまじき
お言も心も言ふまじき
お言も心も言ふまじき
お言も心も言ふまじき
お言も心も言ふまじき

鮎敬
譚月
片甲
宇甲
曹氏
嗽石
黄治
菊二

秋廿八

秋雨

おの言も心も言ふまじき
おの言も心も言ふまじき
おの言も心も言ふまじき
おの言も心も言ふまじき
おの言も心も言ふまじき
おの言も心も言ふまじき
おの言も心も言ふまじき
おの言も心も言ふまじき
おの言も心も言ふまじき
おの言も心も言ふまじき

里石
五叶
徳門
木姿
泰山
呉竺
振衣
青寄
燕々

薄

初葉

八羽梅

薄きうらなふちを渡る雨
鳴きあがりたるあまの
浪のまをわたりてはる
あまのうらなふちを渡る
いなりと熊のまをわたりて
八羽やまをわたりてはる
寂しきうらなふちを渡る
いなりと熊のまをわたりて
あまのうらなふちを渡る
いなりと熊のまをわたりて

石翁
凡十
洞芝
蝶曼
佳睡
倉庫
盧川
家居
一路
如白

秋廿九

花為

尾花

花をみてはるあまの
鳴きあがりたるあまの
浪のまをわたりてはる
あまのうらなふちを渡る
いなりと熊のまをわたりて
八羽やまをわたりてはる
寂しきうらなふちを渡る
いなりと熊のまをわたりて
あまのうらなふちを渡る
いなりと熊のまをわたりて

未龍
二涼
二貞
青雲
斗周
當車
鷺橋
只言
東海
此相

荳蔻 花籃 藍花 紫苑 露叶

養心也尾をなするに
馬車く好景つるおき
うきやの屋のちねて枯
りや一はるしりて
新嘉坡の街をりり
石のうきやのちねて
丈六の清いふき
あけやのちねて
けしきも好景つるおき

楊中 巴陵 李雪 紫苑 紫葉 梅人 葉葉 湖隱

月草 酸醬 木犀 烏頭 蓼花 秋海棠

月草やちねて
月草やちねて
鬼灯やちねて
鬼灯やちねて
けしきも好景つるおき
けしきも好景つるおき
けしきも好景つるおき
けしきも好景つるおき
けしきも好景つるおき
けしきも好景つるおき

此三 瓜泥 紫葉 紫葉 紫葉 紫葉 紫葉 紫葉

芙蓉

芳のるりぬきも秋のいろ

修

唯定

貸る月もさうふるあつ

波臨

紅のるりぬきも秋のいろ

理玉

竹のるりぬきも秋のいろ

顧

くせふに痛うなりき

八水

さるるに月も白く木の本

秋水

さるるに月も白く木の本

秋里

さるるに月も白く木の本

和流

さるるに月も白く木の本

泉明

秋三十一

木犀

桂

花野

葛花

秋のるりぬきも秋のいろ

修

馬北

秋のるりぬきも秋のいろ

紀

泉々

秋のるりぬきも秋のいろ

紀

四茶

秋のるりぬきも秋のいろ

紀

坡明

秋のるりぬきも秋のいろ

紀

望海

秋のるりぬきも秋のいろ

紀

東支

秋のるりぬきも秋のいろ

紀

布旦

秋のるりぬきも秋のいろ

紀

土路

秋のるりぬきも秋のいろ

紀

菱友

秋のるりぬきも秋のいろ

紀

菱友

野菊

葛

鳳仙

白粉

罌粟蔕	貝割菜	薯蕷	零餘子	稻花	稻稜
けりきりふらふらー 甚ふのききまて	けりきりふらふらー 甚ふのききまて	けりきりふらふらー 甚ふのききまて	けりきりふらふらー 甚ふのききまて	けりきりふらふらー 甚ふのききまて	けりきりふらふらー 甚ふのききまて
大和	大和	大和	大和	大和	大和
流水	湖萍	方怒	葉二	白碎	道肥
雨橋	雨橋	雨橋	雨橋	雨橋	雨橋
西水	西水	西水	西水	西水	西水
秋三	秋三	秋三	秋三	秋三	秋三

落穂	稻莖	稻守	稻刈
ききりふらふらー 甚ふのききまて	ききりふらふらー 甚ふのききまて	ききりふらふらー 甚ふのききまて	ききりふらふらー 甚ふのききまて
大和	大和	大和	大和
流水	湖萍	方怒	葉二
雨橋	雨橋	雨橋	雨橋
西水	西水	西水	西水
秋三	秋三	秋三	秋三

稿舟

いふ舟よりいふ舟にききし入る

木羽

稿垣

稿舟も強きしほき掉きし

孤舟

稿木

稿舟もふりもきし久我強の

晋佑

稿塚

いふ掛も稿舟も世にきし

松亭

稿磨

いふ稿舟も世にきし

得皮

栗

いふ稿舟も世にきし

石炭

秋三千五

黍

いふ稿舟も世にきし

衣玉

蜀黍

いふ稿舟も世にきし

岳紅

稗

いふ稿舟も世にきし

丁水

案山子

いふ稿舟も世にきし

正巴

いふ稿舟も世にきし

素石

いふ稿舟も世にきし

雪魚

いふ稿舟も世にきし

似推

いふ稿舟も世にきし

六川

鳥聲

返るふりてのうらなひの葉のうら
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ

奥門 文志 瑤流 曹秀 吉容 五鹿 杏鏡 未風 佐々木 馬秋

鳴子

うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ
うらなひのうらなひのうらなひ

鳥名 谷水 杜良 羅人 二朝 郡史 野橋 紫二 雛化 尺艾

鳴竿

引板

添水

燒帛

落水

いづれも入るはしき事なり
明しき水に流るる橋の影
やまの山影のさるる路
やまの山影のさるる路
水影のさるる路の影
水影のさるる路の影
水影のさるる路の影
水影のさるる路の影

俊祐
雨橋
路香
好山
連水
約我
後鳥
秋碑
如伯
秋夢

秋三七

秋が

構衣

曉の甲斐の山影のさるる路
雲の影のさるる路の影
はるの影のさるる路の影
秋の影のさるる路の影
秋の影のさるる路の影
秋の影のさるる路の影
秋の影のさるる路の影
秋の影のさるる路の影

支百
青馬
丁也
一岸
彩衣
涼秀
寸莖
甫尺
葉二
義柳

初雁

むすもつちりおぼろ
確はまきりし夜ふけ
ちりもきりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ

柳丈
宇
楓子
暮三
書
香林
望鶴
暁臺

卷三八

雁

ちりもきりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ
くもりし夜ふけ

小水
桃牛
吳生
其丈
来也
布衣
吉竹
立季
露光
巴陵

佐食 流口 饅頭 饅頭 對半 兒推 一斤 菜二 菜兒 五門 里方

鵲

如平
 有夢
 綺石
 末
 潮路
 巴文
 上何
 歸朝
 何賀
 張后
 秦龜
 凡广
 吳德
 坡曉

鶉

鴨

棕鳥

檉鳥

翠雀

山雀

[illegible]

張

陸

夢兒

文雅

詩

五

桃水

聖

蛙考

下

舊序

卷之四

悠聖

稿

秋四十

四十雀

子中書

連省

頰赤

同白

永木

鷓鴣

元はくしり初めや半々
木もとも燃つて土焦るや花
天金と知りてや鉄より中々
きぬ草の底もやこゝろ愛の心
朝のまふせ世にふる雨あふ
新雪の白さこそよく押目白
木つららそれこそよく梅乃木
夢本らや春の餅は体む時
国柱との思くて情一古昔声
もと帝や在むくま女奴の中

五

紀

春香

21

書情

一晴

陸

矣

誦

英

法

修記

勢

他

鳥

鴨柳

鵲

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鴨柳は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鴨柳

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

秋四十一

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯は枝葉のうさぎのうさぎ

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

鶯

太刀魚
沙魚
江鯉
小澤江鯉
鱸
初鰱
小鰱
落鮎

たしあめのかやひるまゝのほ
ちせのや腮のまゝの法路の
毎昔のゆきまゝのあまの魚
夕白のまゝのまゝの料の
細うてまゝのまゝの那
花のまゝのまゝのまゝの
小いうまゝのまゝのまゝの
けいの人あひのまゝの
あまのまゝのまゝのまゝの

無
春
好
雲
宜
佳
買
写
谷

秋四十二

下築
蛇穴入
鹿
落鮎

落鮎のまゝのまゝのまゝの
あまのまゝのまゝのまゝの
あまのまゝのまゝのまゝの
あまのまゝのまゝのまゝの
あまのまゝのまゝのまゝの
あまのまゝのまゝのまゝの
あまのまゝのまゝのまゝの
あまのまゝのまゝのまゝの

圃
風
二
和
送
香
芦
瓦
南
松

日來
燕金

十日集

殘葉

牛糸

あつちききききあやちく合
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官

上野

法洛

可群

丹后

野涼

大和

梅东

作著

幽軒

子

右牛

寸糸

若菴

掛津

用山

東瓦

秋四十五

交市

外市

後名月

あつちきききあやちく合
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官
ふちりりちきりりちきき官

何門

雨候

掛津

葉下

後名

外人

後名

白居

後名

蝶愛

後名

蝶愛

後名

非丘

純作

千影

三寒

卓五

梅紅葉
赤紅葉
萬葉

りるのしるもいふ事あるのり
目もくもくもくもくもくもく
そくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

青楓
葉二
葉三
中々
曉基
花鳥
山翠
之尺
左江

秋四十七

梅紅葉
横紅葉
柳紅葉
不色裏松
鴨脚
銀杏
栗

かやもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく
もくもくもくもくもくもくもく

雨上
左幾
杜栗
曾秋
拍水
花朗
貝朱
松字
一竿
吐曉

張家

望雲

如葉

杜榮

其白

鯨

魚

二 榭

八

白嶽

杜音

相子

六

三隨

嶺山

那不知

冬李

路

道肥

極 柘 九舞母 胡桃 梨子 榎植 榎樟

精もや耐さるに木の身
 名のまふ富のそや八世目
 里のそものすまふ月さるる
 夕無さるに極の目
 くのそやそる甘き風のそ
 米あや破風持ぬ鬼のそ
 冷や小極はほもさるる水
 つか月あやそる梨子のそ
 榎植の木は隣まじりて
 馬櫓のそらそる木の社

上世 悟坐
 紀序 徳哉
 一扇 琴峰
 社 一
 探梅
 誰愛
 朽鳥
 之冲
 文雅

秋四十九

椽實 棕實 櫻實 椿實 柰實 瓢木実 梅檀子 皂角子

木の身もや耐さるに木の身
 木の身もや耐さるに木の身
 木の身もや耐さるに木の身
 木の身もや耐さるに木の身
 木の身もや耐さるに木の身
 木の身もや耐さるに木の身
 木の身もや耐さるに木の身
 木の身もや耐さるに木の身
 木の身もや耐さるに木の身
 木の身もや耐さるに木の身

芦雅
 漢水
 淳古
 鳳羽
 奴宮
 石の
 昌生
 文川
 徳哉
 早の

南天子
菩提子
鴨上戸
仙蓼
梅嫌
木實
老轉笑
吾亦紅

袋手楽て人うた金たもとの
さういふ金もあつた昔は
ちやをさしるひも上戸の
世もや頼りたういふ
ちやちやもさういふ梅も
梅嫌もさういふ金たも
うた金たもさういふ金たも
ちやちやもさういふ金たも
ちやちやもさういふ金たも

誰姿
一徹
秀曉
麥雨
仙市
竹風
可守
東走
士川

秋五十

草實
思州
龍膽
苦花
薄散

ちやちやもさういふ金たも
ちやちやもさういふ金たも
ちやちやもさういふ金たも
ちやちやもさういふ金たも
ちやちやもさういふ金たも
ちやちやもさういふ金たも
ちやちやもさういふ金たも
ちやちやもさういふ金たも
ちやちやもさういふ金たも
ちやちやもさういふ金たも

僕人
僕人
素約
丹士
涼夕
李芳
翹蘭
青容
苦白

松露

松茸

初茸

紅茸

櫻茸

黃茸

仙の山小国ふさふさ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ

其則

雨浪

松月

以流

東龍

松茸

主香

林泉

自來

蝶夢

蕈茸

針茸

茸狩

木菌狩

裏枯

ふの山松茸やうふふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ
松茸すまふふ松茸ふ

九和

西厓

同山

篠袴

鄙長

稼良

卧猪

只言

喜路

仙露

野山錦

木々の葉も月お井の如く
廣くまきくくくくくく
花乃あまきく野山錦
くくくくくくくくくく
一時の首あまきくく
松の葉も月お井の如く
花乃あまきく野山錦
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

上記

佐及

佐及

素兄

下記

片記

加皮

虎来

以龍

了帝

文里

秋五十二

株

刈田

晩稲

漆掻

新葉

新米

新酒

今更屋

是の葉も月お井の如く
廣くまきくくくくく
花乃あまきく野山錦
くくくくくくくくくく
一時の首あまきくく
松の葉も月お井の如く
花乃あまきく野山錦
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

新記

新記

新記

新記

新記

新記

新記

新記

新記

新記

星月夜

つと揉や思ふせうるふ乃言
そのまにぬきけり甲冑よ
さしはるもあつた月夜
時切つての心もあつた月夜
あつた心もあつた月夜
さる井かきもあつた月夜
そのまにぬきけり甲冑よ
さしはるもあつた月夜
時切つての心もあつた月夜
あつた心もあつた月夜

臨海
佐々木

徳樓

左朝

其白

柳郊

棠故

勁凡

折風

幽古

露時雨

根五十四

露霜

秋霜

秋夜

煙霧のまゝの露
つと揉や思ふせうるふ乃言
そのまにぬきけり甲冑よ
さしはるもあつた月夜
時切つての心もあつた月夜
あつた心もあつた月夜
さる井かきもあつた月夜
そのまにぬきけり甲冑よ
さしはるもあつた月夜
時切つての心もあつた月夜
あつた心もあつた月夜

五有

二給

聖楊

蘭蕙

是月

佐々木

士朗

重厚

素心

菊隱

長夜

灯心はほろろ秋の夜半より
たう紙幣やふきつゝふきつゝ
度いふてゐるも秋の夜半より
静かなるも火の音はあつた
もまたやふきつゝふきつゝ
あつたやふきつゝふきつゝ
長き夜はつねにふきつゝ
破傘ふきつゝふきつゝ
ふきつゝふきつゝふきつゝ
あつたやふきつゝふきつゝ

他丁

公輅

五牛

魯白

堡老

利字

散菴

航翠

白雄

五來

荒振

張り

秋五十九

秋暮

年々ふきつゝふきつゝ
月夜半よりふきつゝ
あつたやふきつゝふきつゝ
あつたやふきつゝふきつゝ
あつたやふきつゝふきつゝ
あつたやふきつゝふきつゝ
あつたやふきつゝふきつゝ
あつたやふきつゝふきつゝ
あつたやふきつゝふきつゝ
あつたやふきつゝふきつゝ

仔細

路人

上中

雙牛

三泉

曹妹

野上

蘭下

東籬

芦皓

瓦全

雲も月も空の秋やあまの暮
けしきも旅人の心も秋の空
向ふも思ふも秋の空
けしきも旅人の心も秋の空
けしきも旅人の心も秋の空
けしきも旅人の心も秋の空
けしきも旅人の心も秋の空
けしきも旅人の心も秋の空

馬駒 通誠 吉行 藤夢 菅野 杜由 石尾 左言 石堂

秋五十六

暮秋

けしきも旅人の心も秋の空
けしきも旅人の心も秋の空
けしきも旅人の心も秋の空
けしきも旅人の心も秋の空
けしきも旅人の心も秋の空
けしきも旅人の心も秋の空
けしきも旅人の心も秋の空
けしきも旅人の心も秋の空

青龍 菊二 堀里 抱元 芳水 藤夢 菅野 杜由 石尾 左言 石堂

已四

行秋

雲の秋平も秋風とて通る音
 木心や月代はさきも此秋
 清きや秋の山雲夕法の日
 多うそ頻り出のちりね
 け秋や也連くて舟一艘
 け秋や目出する船方流
 け秋や奈良なま其指先
 け秋や由を略す成鴨あかり
 け秋やたふし立料乃底
 け秋よしの落つく小庭に

冬侍

冬まつや穽まらぬあけらふは

稼良

小満あけふきの夜まつやみきこ

几華

行所や豆蔵ついでと冬まつ

紀后 江山

九月盡

難防ふちもあけらふ九月盡

東朝

秋計

懐きまらぬ秋計のまぢめ月盡

舞上

時まつて秋意あふふらり

孝陸 雪上

国九月

寂しみの宇まらぬ九月

竹麻

常盤まつてもあけらふ九月

染雲

